

# 植物から原料合成

ポリウレタン

バイオベースなど柔軟性高める

植物原料の高分子材料 大学の宇山浩教授らと共 物から作った。石油から開発に取り組むバイオベ 同で、ポリウレタンの原 作る市販品と、特性や価

ース(大阪市)は、大阪 料となるポリオールを植 格を同程度にできるとい

う。 開発したポリオール は、トウモロコシなどを 発酵させて作る。乳酸と 植物油脂のヒマシ油から 合成した。植物から作る ポリオールは硬くてもろ く、柔軟なポリウレタン を作れない。乳酸の重合 にヒマシ油を使い柔軟性 を高めた。 ポリオール分子の大き さを調整できるのも特 徴。分子量は二千から一 万の間で調整可能とい う。従来のポリオールの 分子量は千以下だった が、分子量を大きくする ことでポリウレタンの柔 らかさをコントロール可 能。

一キ 百八十一千円程度と 幅が広い。開発品は量産 すれば同二百円以下にで きるとみている。